

## 発達障害児の家庭支援における個別指導場面の役割

伊藤さと子

### I 問題

家庭場面での技能形成活動に対しては、家族と本人が負担なく実行していくことができるやり方を検討し提案する場として、個別指導場を用いる有効性が高いということが先行研究によって示された。しかし、「負担なく実行できる」という点については、先行研究では全ての活動を本人が1人でできることを目標にしたために、かえって本人と家族の負担を招いてしまったことが指摘された。よって、個別指導場面での手続きを検討するにあたっては、これまでの家族と本人との活動の中で行われてきた援助を活かし、家族がどの程度の援助であれば負担を感じないかを検討する必要があるだろう。

また、個別指導場面においてシミュレーションを行う際には、当該の場面を設定するだけでなく、家庭場面においてその場面や対象となる行動がどのように変化するか、あるいは変化させていけばよいのかまでを想定していくことが求められると考える。これにより、家族がより先にまで見通しを持って本人と接していくことができるのではないだろうか。

そこで本研究の課題として、1) 家庭場面での技能形成にあたっての家族の援助も含めた行動形成手続き、2) 対象児が1人で行うことが難しい行動に対し、家族がどの程度の援助であれば負担を感じずに家庭場面での実行を続けていくことができるか、3) 標的行動が将来的に発展することや拡大することを見据えた個別指導場面の環境設定のあり方の3点を検討することが挙げられる。

### II 目的

本研究では、発達障害児の家庭に対して支援を行う際に、個別指導場を設け家庭への移行を図ることを目的に、個別指導場面の役割について次の点から検討する。

1. 対象児による標的行動の自立的遂行に向けた指導に加え、自立的遂行が困難な行動項目に対してどのような家族の援助が有効か、あるいは可能なのかを検討する。
2. 標的行動の確立や発展に必要な家庭の環境設定を分析し、その有効性を検討する。

### III 方法

#### 1. 対象児

S1は知的障害養護学校中学部1年に在籍する男児であり、S2は知的障害養護学校小学部5年に在籍する男児であった。

2名は兄弟であり、共に医療機関において自閉的傾向を伴う知的障害と診断された。

#### 2. 手続き

##### 1) 事前アセスメント

標的行動を選定するために、(1) 家族の希望調査、(2) 家庭での生活の様子についての調査、(3) 技能面以外での家庭で困っている行動の調査、(4) 家庭の間取りに関する調査を行った。

##### 2) 標的場面及び標的行動の選定

標的場面の選定にあたっては、(1) 母親への聞き取り、(2) 指導者による評価、(3) 母親の評価と指導者の評価の合計、(4) 個別指導場面の設定についての評価、(5) (2)～(4)の各評価のまとめという手続きをとった。

以上より、「食事」「排尿」「排便」「着替え」「後片付け」「歯磨き」「手洗い・うがい」を標的場面として選定した。

そこから更に標的行動を選定するために、(1) 選定された場面のビデオ観察、(2) 母親への聞き取り、(3) 排尿・排便に関する調査、(4) 食事に関する調査を行い、場面ごとに標的行動を決定した。

##### 3) 支援計画の立案・実行・修正

支援計画の立案は、(1) 標的行動に関する要

因の分析, (2) 個別指導場面における検証, (3) 競合バイパスモデルの作成, (4) 個別指導場面での手続きの整理, (5) 家庭場面での具体的な実行手続きの作成の順に行った。

支援計画の実行後, 家族と協議を行い, 支援計画に修正を加えた。

#### IV結果

##### 1. 食事

食事場面では標的行動である「こぼさないで食べる」こと, 「箸を使って食べる」ことに加え, 食事場面全体の改善に向けた補助的手段としてトレイとランチョンマットを導入し, それを用いた「準備」や「片付け」に関わる行動も指導の対象とした。

S1 は, 標的行動の遂行には個別指導場面では指導者による援助が必要であった。家庭場面では, 支援計画に基づく関わり方を母親が実行して, 標的行動を遂行させていた。「準備」や「片付け」は個別指導場面で行動の自立的遂行が増えた。家庭場面で新たに「準備」の機会が設けられるようになり, S1 の自立的遂行が可能な行動が確認された。S2 は, 個別指導場面においては標的行動の自立的遂行が続くようになった。家庭場面では母親が援助する場合があった。「準備」や「片付け」は個別指導場面では遂行の際に指導者の声かけや指差しといったプロンプトが必要な行動が多かった。しかし, 新たに遂行機会が設けられた家庭場面では, 「準備」で行動の自立的遂行が見られた。

##### 2. 排尿

S1 の標的行動は個別指導場面では形成途中であり, 指導者の援助が必要であった。

S2 は個別指導場面において標的行動の自立的遂行が続くようになった。

##### 3. 歯磨き

個別指導場面で補助的手段として電動歯ブラシを S1, S2 共に導入した。特に S2 において, 導入直後から歯ブラシを口に入れている時間が延び, 家庭場面への電動歯ブラシ導入に対して母親が積極的な姿勢を見せた。

表 1 個別指導場面プロンプトレベル: 食事 (S1)

\*:事前アセスメントで選定された標的行動 ◎:補助的手段の導入に伴う標的行動

S1の動き	I			II		III		IV		自発 声かけ 指差し 手招き 声かけ・動作 声かけ・指差し モデリング 身体援助 機会なし 項目なし
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
◎準備										
マットから皿を取る										
皿を受け取る										
取った皿をトレイに置く										
マットからコップを取る										
取ったコップをトレイに置く										
◎食べる										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎おかわりをマットから取る										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎おかわりをマットから取る										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎片付け										
トレイを持つ										
トレイを台に置く										
皿を持つ										
皿をたらいに入れる										
◎コップを持つ										
コップをたらいに入れる										
箸を持つ										
箸をたらいに入れる										
ふきんを持つ										
トレイを拭く										
ふきんを持つ										
テーブルを拭く										

表 2 個別指導場面プロンプトレベル: 食事 (S2)

\*:事前アセスメントで選定された標的行動 ◎:補助的手段の導入に伴う標的行動

S2の動き	I			II		III		IV		自発 声かけ 指差し 手招き 声かけ・動作 声かけ・指差し モデリング 身体援助 機会なし 項目なし
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
◎準備										
マットから皿を取る										
取った皿をトレイに置く										
マットからコップを取る										
取ったコップをトレイに置く										
◎食べる										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎おかわりをマットから取る										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎おかわりをマットから取る										
*箸を正しく持つ										
*左手で皿を持つ										
◎片付け										
トレイを持つ										
トレイを台に置く										
皿を持つ										
皿をたらいに入れる										
◎コップを持つ										
コップをたらいに入れる										
箸を持つ										
箸をたらいに入れる										
ふきんを持つ										
トレイを拭く										
ふきんを持つ										
テーブルを拭く										

表 3 家庭場面プロンプトレベル: 食事 (S1)

\*:事前アセスメントで選定された標的行動 ◎:補助的手段の導入に伴う標的行動

S1の動き	セッション		自発 声かけ 指差し 手招き 声かけ・動作 声かけ・指差し モデリング 身体援助 機会なし 項目なし 記録なし
	1	2	
◎準備			
マットから皿を取る			
マットからコップを取る			
皿を受け取る			
取った皿をトレイに置く			
取ったコップをトレイに置く			
◎食べる			
*箸を正しく持つ			
*左手で皿を持つ			
◎おかわりをマットから取る			
*箸を正しく持つ			
*左手で皿を持つ			
◎おかわりをマットから取る			
*箸を正しく持つ			
*左手で皿を持つ			
◎片付け			
トレイを持つ			
トレイを台に置く			
皿を持つ			
皿をたらいに入れる			
◎コップを持つ			
コップをたらいに入れる			
箸を持つ			
箸をたらいに入れる			
ふきんを持つ			
トレイを拭く			
ふきんを持つ			
テーブルを拭く			

表4 家庭場面プロンプトレベル：食事（S2）

\*:事前アセスメントで選定された標的行動  
 ◎:補助的手段の導入に伴う標的行動

S2の動き	セッション			備考
	1	2	3	
◎準備				
マットから皿を取る	■	■	■	自発
マットからコップを取る	■	■	■	声かけ
取った皿をトレイに置く	■	■	■	指差し
取ったコップをトレイに置く	■	■	■	手招き
*箸を正しく持つ	■	■	■	声かけ・動作
*左手で皿を持つ	■	■	■	声かけ・指差し
◎おかわりをマットから取る	■	■	■	モデリング
*箸を正しく持つ	■	■	■	身体援助
*左手で皿を持つ	■	■	■	機会なし
◎おかわりをマットから取る	■	■	■	項目なし
*箸を正しく持つ	■	■	■	記録なし
*左手で皿を持つ	■	■	■	
◎片付け				
トレイを持つ	■	■	■	
トレイを台に置く	■	■	■	
皿を持つ	■	■	■	
皿をたらいに入れる	■	■	■	
コップを持つ	■	■	■	
コップをたらいに入れる	■	■	■	
箸を持つ	■	■	■	
箸をたらいに入れる	■	■	■	
ふきんを持つ	■	■	■	
トレイを拭く	■	■	■	
ふきんを持つ	■	■	■	
テーブルを拭く	■	■	■	

V 考察

本研究における個別指導場面では、それまで家庭場面では取り組むことが難しかった活動や問題となっていた行動に対し、改善に向けて必要な物理的環境設定や家族の対応の仕方について検討した。

個別指導場面の環境設定に関しては、家庭場面を想定した物理的な環境配置や活動の流れを設定したことが、対象児と母親の双方の学習に対して効果をもたらすことが示された。

また、対象児の自立的な行動遂行につながる家族の対応に関しては、対象児が持っている技能に応じた活動のきっかけを家族が与えることにより、家庭場面での家族の負担の軽減と対象児による標的行動の自立的遂行が可能になることが示された。

以上より、本研究における個別指導場面の役割として次の点が示唆された。①新たに提案した補助的手段の導入によって、対象児が持っている技能が補われ、母親の援助を軽減できる可能性を明らかにした。②家庭場面には遂行機会がなかった行動を移行させるにあたり、対象児が標的行動を確実に生起させることができるプロンプトレベルを明らかにした。③対象児による行動の自立的遂

行の可能性を示した。

このような個別指導場面の役割が家庭場面にもたらした効果は、家庭場面での対象児の変容に対して母親が見通しと可能性を見出し、家庭場面での新たな活動に踏み切ることができたことであつたと考える。

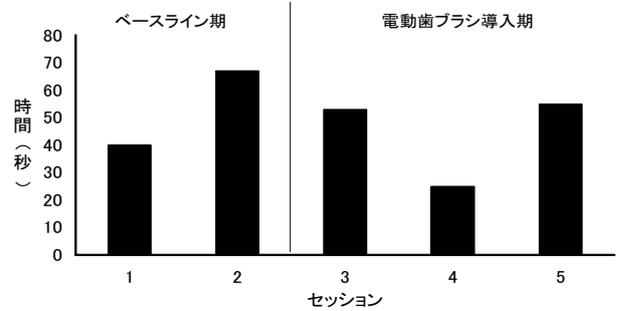


図1 S1が歯ブラシを口に入れている時間

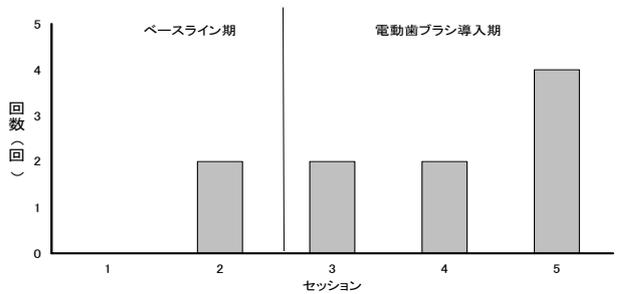


図2 S1が自分で歯ブラシの位置を変えた回数

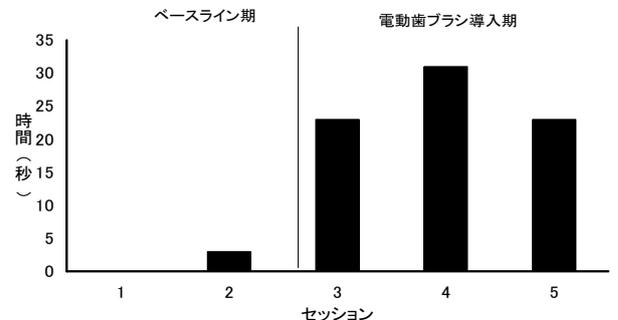


図3 S2が歯ブラシを口に入れている時間

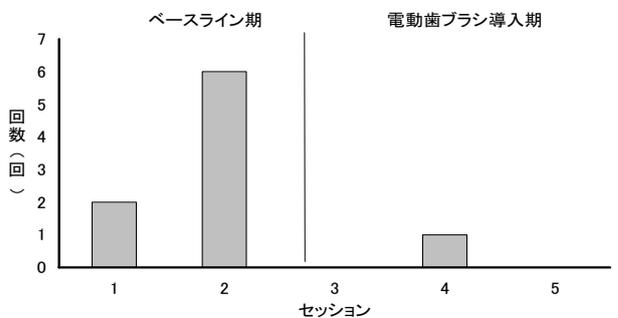


図4 S2が歯ブラシを押しつけた回数

文献

望月昭 (1995) ノーマライゼーションと行動分析：「正の強化」を手段から目的へ。行動分析学研究, 8 (1), 4 - 11.